

大阪の幸運の神様

「ビリケンさん」大槌町で一日町長

足の裏をかくと願いがかなう神様として大阪の人々に愛されている通天閣の名物「ビリケンさん」が大槌町で一日町長を務めました。

大槌町の碓川町長から一日町長の委嘱を受けたのは、大阪・通天閣のシンボルで幸運の神様の「ビリケンさん」です。身長60センチ、体重11キロ、とんがり頭につりあがった目のその姿は、どこかユーモラスです。足の裏をかいてあげると願いがかなうというビリケンさんは町長席に座るのもそこに役場の玄関でさっそく町民の願いを聞いていました。(10/24 ニュースエコーより)



世代間交流フェスタ

三陸めぐり逢いラジオ in 宮古・田老

「世代間交流ふれあいフェスタ」の会場からお届けする「三陸めぐり逢いラジオ」。28日は、宮古市田老のグリーンピア三陸宮古から生中継。今回は、大塚富夫、富田奈央子両アナウンサーがおじゃましました。



山田発

復興かき小屋オープン

岩手県山田町では、かき小屋が、28日から今シーズンの営業を始めました。カキ食べ放題が名物のこの「かき小屋」。去年の大津波で、全壊しましたが、半年後に復活。この秋もオープン初日から、大勢の人が訪れました。用意されたカキ3600個は、あの津波に負けずに育った、「2年もの」と「3年もの」。訪れた人は、海の恵みに感謝しながら、満腹になるまでカキを味わっていました。(10/28 IBCニュースより)



釜石発

被災者の心を癒すホールを作ろう



市民文化会館が被災し、芸術・文化の発表の場を失った釜石市で、多目的ホールを、市民自らの手で作ろうという取り組みが始まりました。

釜石市の仮設商店街で宝飾店を営む音楽家の山崎眞行さん詔子さんご夫妻。震災で、店も自宅も失いました。しかし昨年8月に営業を再開、今は仮設店舗でコーラスを教えています。釜石市は市民文化会館の再建支援を

国に要望していますが、工事着工の時期は早くても5年後、それ以外の具体的な計画はまだ見えていません。そんな中、山崎さんは市民有志らとNPOを組織して、傷ついた心を音楽で癒す、多目的ホールの再建計画に乗り出しました。ホールには釜石ゆかりの作家・井上ひさしに関わる未公開の資料などを展示する記念館を併設する計画です。ガバチョ・プロジェクトと名づけられたNPOは、コンサート活動やインターネットを通じて、国の内外に広く寄付や賛同者を募り、ホール建設のための資金確保を目指します。(10/30 ニュースエコーより)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122